

「共闘勢力」 比例も議席も前進

総選挙結果

野党共闘効果あり

前回と
比べると

	比例得票数			議席数		
	与党	補完勢力	共闘勢力	与党	補完勢力	共闘勢力
2017年	2553万 (自・公)	1306万 (希・維)	1643万 (共・立・社)	310	61	68
2021年	2703万 (自・公)	805万 (維)	1889万 (共・立・れ・社)	291	41	110
	+150万	-501万	+246万	-19	-20	+42

今回の総選挙について、「共闘惨敗」などと伝える報道もありますが、前回選挙の結果と比較すれば、市民と野党共闘の努力の積み重ねの確かな成果が示されています。

不徹底こそ問題

「与党勢力」=自民党と公明党は、比例得票を150万票増やしていますが、議席は19議席減。野党共闘による候補者一本化によるものです。

「与党の補完勢力」=希望の党と維新は、その全体では比例得票も、議席も減らしています。前回総選挙の時にあった希望の党は「安保法制の容認」「9条を含む憲法改定」が政治的主張の中心。希望の党に属した個々の政治家は、その後、立憲民主党に合流し日本共産党とも協力している人が少なくありませんが、希望の党という政党の性格は「与党の補完勢力」そのもの。

維新の会は、憲法改悪、野党分断の先兵役。今回の総選挙で得票と議席を伸ばしましたが、希望の党と合わせた「与党の補完勢力」の全体では、比例得票も議席も後退させました。



「オール沖縄」で勝利した沖縄1区・赤嶺政賢氏(前列右)

「共闘勢力」は、4年前共闘した共産党、立憲民主党、社民党の合計と、今回共闘した、この3党とれいわの合計で比較すると、比例得票数で246万票増やし、議席数で42議席増やしています。

総選挙結果は野党共闘が否定されたものではありません。「野党共闘が徹底できなかったことが問題」「共闘をしていなければ、立憲民主党はもっと議席を減らしていた」と中島岳志東工大教授は指摘しています（「しんぶん赤旗」日曜版14日付）。

文通費 抜本見直し
政党助成金 メスを



記者会見する小池晃書記局長。16日、国会内。

共産党の小池晃書記局長は16日の会見で、文書通信交通滞在費（文通費）について、「日本共産党は以前から抜本的に見直す必要があると繰り返し要求してきた」として、「国民の理解が得られる制度に変えるべきだ」と主張しました。

同時に小池氏は「国会議員・政党に関わる税金で最大の問題は政党助成金だ」と指摘。政党助成金は年間で総額320億円。国会議員1人当たりでは年間4500万円、毎月300万円以上にも上ります。最大の無駄遣いである政党助成金にメスを入れ、廃止するための議論をすべきです。

日本共産党